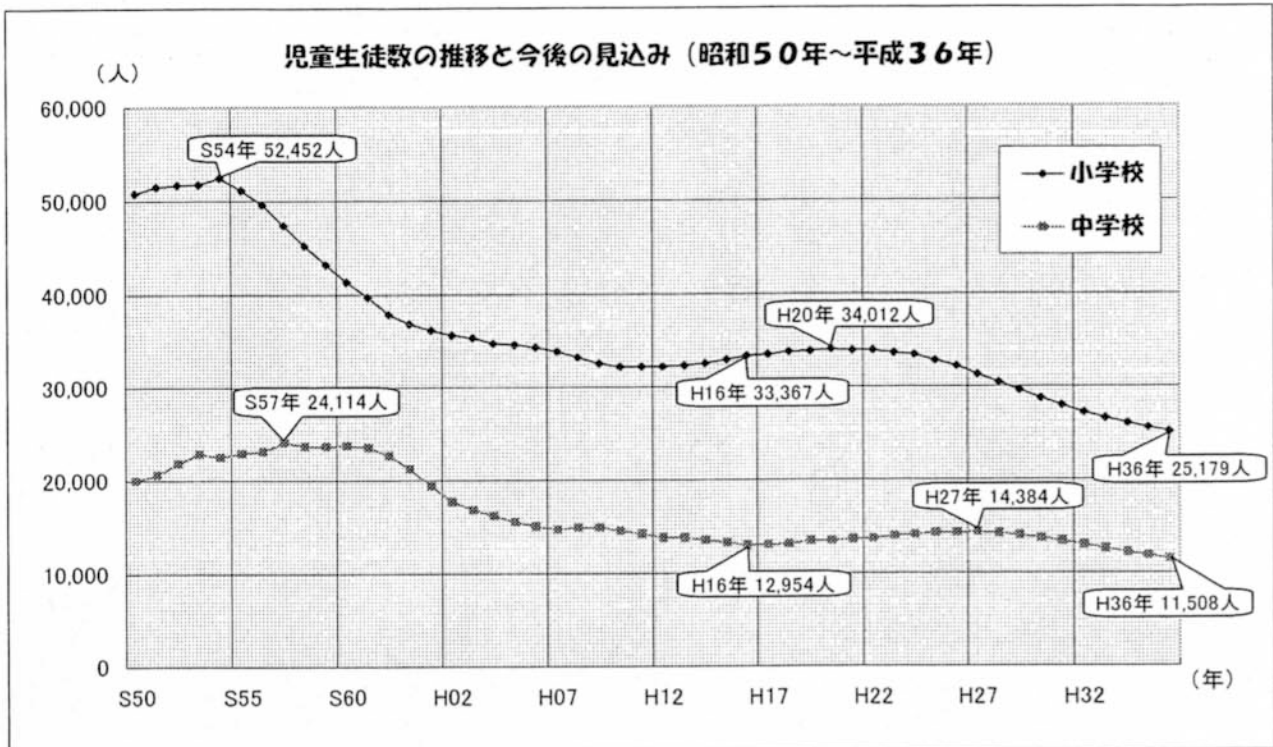


平成 21 年からは減少傾向に転じ、平成 36 年には 25,179 人とピーク時の 48.0%に推移する見込みです。

また、区立中学校の生徒数は、昭和 57 年の 24,114 人をピークに減少傾向に転じ、平成 16 年は 12,954 人とピーク時の 53.7%となっています。今後、平成 27 年までは微増傾向が続きますが、その後は減少し、平成 36 年には 11,508 人とピーク時の 47.7%に推移する見込みです。

なお、学校数は、小学校が平成 2 年に 69 校、中学校が昭和 63 年に 34 校になってから、そのままの数を維持し続けています。



※ 昭和50年～平成16年は各年5月1日現在の実数
 ※ 平成17～21年は東京都教育人口推計による推計値
 ※ 平成22～36年は、練馬区が算出した推計値

(2) 学校規模の格差

区内では、ここ数年、戸建住宅やマンション建設の増加により、児童生徒数が増えている地域がある一方、光が丘地区のように減っている地域もあります。また、児童生徒や保護者の意向に配慮した通学区域制度の弾力的運用（就学指定校の変更）の影響もあり、学校間の児童生徒数の格差が広がりつつあります。平成 16 年度では最大、小学校で 6.4 倍、中学校で 4.4 倍の児童生徒数の格差が生じています。

区 分	児童生徒数			学 級 数		
	最小校	最大校	格 差	最小校	最大校	格 差
小 学 校	144人	926人	6.4倍	6学級	26学級	4.3倍
中 学 校	165人	721人	4.4倍	6学級	19学級	3.2倍

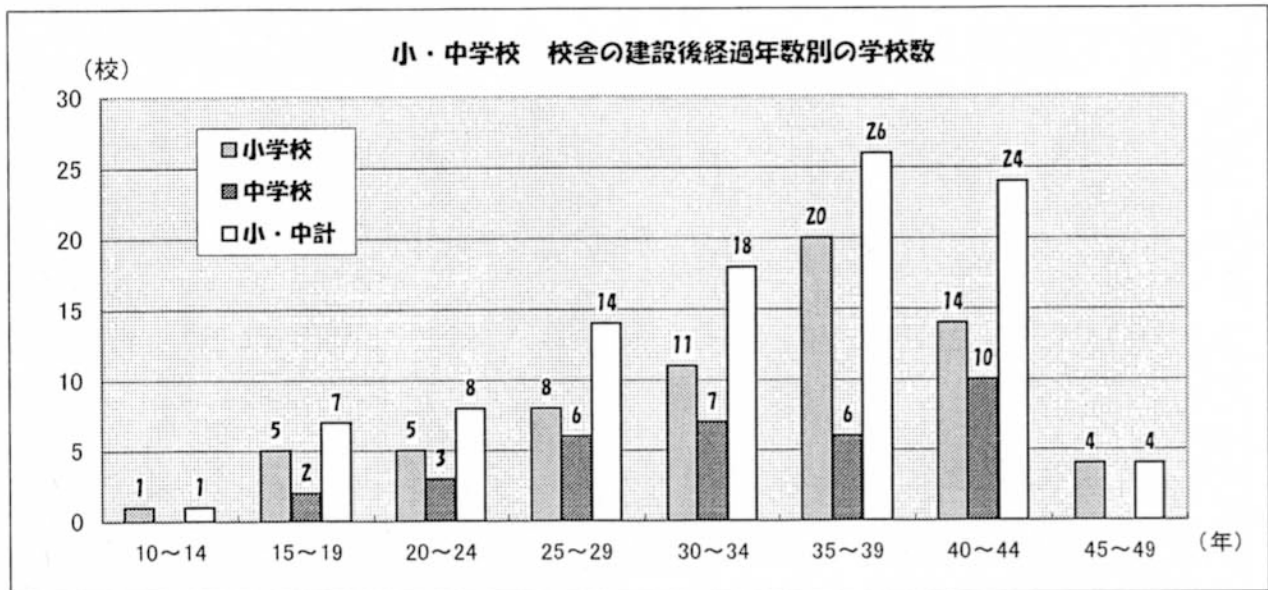
(平成16年5月1日現在)

(3) 校舎の老朽化

区では、昭和 30 年代の中ごろから、児童生徒の急増対策のため、学校の新設や校舎の増築

を行うとともに、木造校舎の鉄筋コンクリート化を進めてきました。学校の校舎は、複数回にわたって増築しているため、最も古い建築部分を基準とすると、現在、小・中学校（103校）のうち、建築後30年以上経過している学校は72校（全体の約70%）、そのうち40年以上経過している学校が28校（全体の約27%）もあり、全体として校舎の老朽化が進んでいます。このため、近い将来、校舎の改築が集中することになりますが、現行の国庫補助の基準では、50年を経過した建築部分のみが対象となることや、同時に何校もの改築は財政的に難しいことから、大規模改修工事などにより、校舎の寿命を延ばすなどの工夫が必要です。

また、学校は児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、大規模災害時の避難拠点としての役割を果たすため、耐震性能の向上を図ることも重要な課題です。



※ 経過年数の基準日は、平成16年4月1日

計 102校(改築済の光和小を除く)

2. これからの学校づくり

(1) 豊かな心の育成と確かな学力の向上

学校は、集団生活を通して児童生徒の豊かな人間性や社会性を育て、学力や体力の向上を図る場です。児童生徒は、学級や同学年、異なる学年との交流、クラブ活動や部活動等、様々な機会を通じて、教員との信頼関係や児童生徒同士の交友関係を築き、他人を思いやる心や感動する心をはぐくんでいます。また、学習面においては、児童生徒一人ひとりの学習の習熟度や興味・関心に応じたきめ細かな指導を行うため、教員を加配し、少人数学習集団による指導（以下、少人数指導という）を80校（16年度）で実施しています。今後、さらに、児童生徒の確かな学力の向上を図るため、少人数指導や選択教科の拡大、TT（チームティーチング ※）の活用を進めるなど、授業の工夫・改善を図り、個に応じた指導の一層の充実に努めます。

※ 一斉指導に加えて、適宜、個別指導、グループ指導等を導入し、複数の教員が分担・協力して指導する方法

(2) 特色ある学校づくり

従来、各学校は、地域の特色や人材を生かしながら、特色ある学校づくりに取り組んでいます。さらに、平成17年度からは、より一層の特色ある学校づくりと学校の活性化を図るため、区立中学校の学校選択制度を実施します。今後も、各学校が児童生徒の興味・関心や保護者の